

新たな生活習慣病発症予測ツール「ひさやま元気予報」運用開始

厚労省の報告によると、2020年には、糖尿病患者は1,400万人、高血圧症有病者は3,100万人・予備群2,000万人、脳卒中患者は288万人に達すると予測しています。更に、心筋梗塞による死亡者、高脂血症有病者も増加傾向にあるとしています。

本県も全国と同様の傾向にあることから、健康に対する意識を高めて頂くとともに、将来の生活習慣病の発生リスクを抑えるため、発症確率を予測できる新システム「ひさやま元気予報」を開発し、運用を開始しました。



このシステムは九州大学と福岡県久山町が50年以上にわたって実施してきた疫学調査の結果を活用し、開発したもので、本年9月21日から運用が始まりました。

利用方法は、下記URLに接続し、①ふくおか健康づくり県民運動情報発信サイトにアクセスし、②サイト上の「生活習慣病発症予測（ひさやま元気予報）」（スマホの場合はトップページのメニューボタンから選択）をクリック、③「ひさやま元気予報」のページが表示されますので、記載事項に従って進めば利用出来ます。

(URL : <https://www.kenko.pref.fukuoka.lg.jp/>)

体重や年齢、血圧や血糖値などを入力すると5年後、10年後の糖尿病と、脳卒中などの心血管病の発症確率が予測できるほか、減量や禁煙をした場合どの程度、確率が低下するかシミュレーションできます。

2018年度も「交通対策協議会」委員の任に務めています

前年度に引き続き、2018年度も「福岡県交通対策協議会」委員に任命され、審議を尽くしています。昨年度は『福岡県交通ビジョン2017』策定に尽力しましたが、このビジョンを基に、今年度からは具体的な施策の実施を求めています。

去る9月3日の「第2回交通対策協議会」では、①『県交通ビジョン2017』の目標に「地方創生のためのまちづくりと連携した交通網の整備」とあるが、地方では公共交通の便が削減されるなど、逆に不便性が増している。この現実をどう考え、対策し、今後活かすのか。②同ビジョンに「大規模災害への備えと事故の未然防止」が掲げられているが、都市部で地震など大規模災害が発生した場合を想定し、拠点駅の整備、鉄道の耐震化などをどのように進めるのか。③県内で自転車と歩行者の事故が減らない中、いかに自転車事故防止を図るのか。以上、質問し、対策を求めました。

日本人初のオリンピック・メダリストは福岡県民です!

『2020東京オリンピック・パラリンピック』の開催まで、2年を切りました。主会場となる「新国立競技場（オリンピックスタジアム）」をはじめ、各競技施設も建設が進み、その姿がマスコミでも取り上げられるなど、徐々に盛り上がりを見せています。

こうしたなか、やはり気になるのが「メダルの数」です。日本人選手が夏季五輪で過去最高のメダル数を獲得をしたのは『2016リオデジャネイロ』で41個、パラリンピックでは『2004アテネ』で52個となっています。『2020東京オリンピック・パラリンピック』では、ぜひ、メダル獲得数を更新してほしいですね。



さて、『リオデジャネイロ五輪』で、テニスの錦織圭選手が銅メダルに輝いた際、「日本人がテニスでメダルを獲得したのは96年ぶり！」と話題になりました。

実は、この96年前にテニスでメダルを取った選手が、なんと日本人初のオリンピックメダリストとなる熊谷一彌（くまがいいいちや）さんで、大牟田市出身の方なのです。

1920年『アントワープ・オリンピック』でシングルスとダブルス（柏尾誠一郎氏とペア）ともに銀メダルを勝ち取っています。

熊谷さんは、オリンピックというスポーツの最高峰の舞台において、日本人として世界挑戦への道を開拓した選手のひとりであったのです。福岡県民として、なんとも誇らしいですね。